

食品安全委員会の運営について（平成28年7月～9月）

1. 食品安全委員会の開催

7月：第613回～第616回

(1) 食品健康影響評価の要請案件

農薬（8品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オキサチアピプロリン</li> <li>・クロフェンテジン</li> <li>・ピリダリル</li> <li>・ピリベンカルブ</li> <li>・フルベンジアミド</li> <li>・マンジプロパミド</li> <li>・メタアルデヒド</li> <li>・メピコートクロリド</li> </ul>
農薬及び動物用医薬品（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジノテフラン</li> </ul>
動物用医薬品（3品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クロサンテル</li> <li>・トルトラズリルを有効成分とする牛及び豚の強制経口投与剤（牛用バイコックス、豚用バイコックス）（再審査）</li> <li>・フルニキシメグルミンを有効成分とする豚の注射剤（フォーベット50注射液、フィナジン50注射液）（再審査）</li> </ul>
遺伝子組換え食品等（1案件2品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組換えDNA技術によって得られた微生物を利用して製造された添加物のうち、食品安全委員会が高度に精製されたものとして安全性を確認した品目と比較して有効成分が同一である等所定の項目を満たすもの</li> <li>・GGI株を利用して生産されたL-グルタミン</li> <li>・NZYM-LP株を利用して生産されたホスホリパーゼ</li> </ul>

(2) 食品健康影響評価の結果通知案件

農薬（4品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キンクロラック <u>ADIを0.34 mg/kg 体重/日、ARfDを1.5 mg/kg 体重と設定。</u></li> <li>・フルオピラム <u>ADIを0.012 mg/kg 体重/日、ARfDを0.5 mg/kg 体重と設定。</u></li> <li>・イミダクロプリド <u>ADIを0.057 mg/kg 体重/日、ARfDを0.1 mg/kg 体重と設定。</u></li> <li>・グリホサート <u>ADIを1 mg/kg 体重/日と設定し、ARfDは設定する必要がないと判断。</u></li> </ul>
動物用医薬品（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クロサンテル</li> </ul>

	<p>平成26年1月27日付け委員会決定の1に当たるものとして、<u>食品安全基本法第11条第1項第2号の人の健康に及ぼす悪影響の内容及び程度が明らかであるときに該当すると認められる。</u></p>
遺伝子組換え食品等（1案件）	<p>・ 高度に精製され、安全性の確保に支障がないことが確認された食品添加物を飼料添加物として使用する場合に安全性の確保に支障がないことの確認について  <u>既に食品安全委員会が「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物のうち、アミノ酸等の最終産物が高度に精製された非タンパク質性添加物の安全性評価の考え方」に基づき、安全性を確認した食品添加物については、飼料添加物として使用された場合であっても、当該飼料添加物は高度に精製されており、これを摂取した家畜に由来する畜産物の安全上の問題はなく、人の健康に及ぼす影響が変わるものではないことから、食品安全基本法第11条第1項第2号の人の健康に及ぼす悪影響の内容及び程度が明らかであるときに該当。</u></p>
器具・容器包装（1品目）	<p>・ フタル酸ジオクチル  <u>TDIを0.37 mg/kg 体重/日と設定。</u></p>
薬剤耐性菌（1品目）	<p>・ 硫酸セフキノムを有効成分とする牛及び豚の注射剤（コバクタン/セファガード）  <u>評価対象動物用医薬品である硫酸セフキノム製剤が牛及び豚に使用された結果としてハザードが選択され、牛及び豚由来の畜産食品を介してヒトがハザードに暴露され、ヒト用抗菌性物質による治療効果が減弱又は喪失する可能性は否定できず、総合的にリスクを推定した結果、リスクの程度は中等度であると考えた。</u></p>

(3) その他

- ・ 平成27年食中毒発生状況の概要について厚生労働省から報告
- ・ 食品安全関係情報（6月4日～6月17日収集分、6月18日～7月1日収集分）について報告

8月：第617回～第620回

(1) 食品健康影響評価の要請案件

農薬（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘキシチアゾクス</li> </ul>
動物用医薬品（1案件2品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づき定められた、食品、添加物等の規格基準（昭和34年厚生省告示第370号）のクマホス試験法の改定</li> <li>・アルベンダゾール</li> <li>・ジクラズリルを有効成分とする牛の強制経口投与剤（ベコクサン）</li> </ul>

(2) 食品健康影響評価の結果通知案件

農薬（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘキシチアゾクス</li> </ul> <p><u>平成26年1月27日付け委員会決定の1に当たるものとして、食品安全基本法第11条第1項第2号の人の健康に及ぼす悪影響の内容及び程度が明らかであるときに該当すると認められる。</u></p>
動物用医薬品（1案件3品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トルトラズリルを有効成分とする牛及び豚の強制経口投与剤（牛用バイコックス、豚用バイコックス）</li> </ul> <p><u>本製剤が適切に使用される限りにおいては、食品を通じてヒトの健康に影響を与える可能性は無視できると考えられる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フルニキシンメグルミンを有効成分とする豚の注射剤（フォーベット50注射液、フィナジン50注射液）</li> </ul> <p><u>本製剤が適切に使用される限りにおいては、食品を通じてヒトの健康に影響を与える可能性は無視できると考えられる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づき定められた、食品、添加物等の規格基準（昭和34年厚生省告示第370号）のクマホス試験法の改定</li> </ul> <p><u>食品安全基本法第11条第1項第1号の食品健康影響評価を行うことが明らかに必要でないときに該当することを確認。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アルベンダゾール</li> </ul> <p><u>平成26年1月27日付け委員会決定の1に当たるものとして、食品安全基本法第11条第1項第2号の人の健康に及ぼす悪影響の内容及び程度が明らかであるときに該当すると認められる。</u></p>
プリオン（1案件）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・牛海綿状脳症(BSE)国内対策の見直し（健康と畜牛のBSE検査の廃止）</li> </ul> <p><u>BSE検査の検査対象月齢について、現在と畜場において実施されている、食用にと畜される48か月齢超の健康牛のBSE検査について現行基準を継続した場合と廃止した場合のリスクの差は非常に小さく、人への健康影響は無視できると判断。</u></p>

<p>遺伝子組換え食品等（3品目）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低飽和脂肪酸・高オレイン酸及び除草剤グリホサート耐性ダイズMON87705系統、除草剤ジカンバ耐性ダイズMON87708系統並びに除草剤グリホサート耐性ダイズMON89788系統からなる組合せの全ての掛け合わせ品種  <u>「遺伝子組換え食品（種子植物）の安全性評価基準」に基づき評価した結果、ヒトの健康を損なうおそれはないと判断。</u></li>   <li>・チョウ目害虫抵抗性ダイズMON87751系統（食品）  <u>「遺伝子組換え食品（種子植物）の安全性評価基準」に基づき評価した結果、ヒトの健康を損なうおそれはないと判断。</u></li>   <li>・チョウ目害虫抵抗性ダイズMON87751系統（飼料）  <u>「遺伝子組換え飼料及び飼料添加物の安全性評価の考え方」に基づき評価した結果、改めて「遺伝子組換え食品（種子植物）の安全性評価基準」に準じて安全性評価を行う必要はなく、当該飼料を摂取した家畜に由来する畜産物について安全上の問題はないと判断。</u></li> </ul>
-----------------------	--

（3）その他

- ・食品安全モニターからの随時報告（平成27年4月～9月分）について報告
- ・食品安全関係情報（7月2日～7月14日収集分、7月15日～8月5日収集分）について報告
- ・平成28年度食品安全確保総合調査追加課題を決定

9月：第621回～第624回

(1) 食品健康影響評価の要請案件

プリオン（1案件）	・オーストラリアから輸入される牛、めん羊及び山羊の肉及び内臓について
遺伝子組換え食品等（1品目）	・除草剤ジカンバ及びグルホシネート耐性トウモロコシMON 87419系統

(2) 食品健康影響評価の結果通知案件等

添加物（1品目）	・炭酸カルシウム <u>通常の食事以外からのカルシウムの摂取量に関する上限値を2,000 mg/人/日（カルシウムとして）と設定。</u>
農薬（8品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オキサチアピプロリン <u>ADIを3.4 mg/kg 体重/日と設定し、ARfDは設定する必要がないと判断。</u></li> <li>・クロフェンテジン <u>ADIを0.017 mg/kg 体重/日と設定し、ARfDは設定する必要がないと判断。</u></li> <li>・パクロブトラゾール <u>ADIを0.02 mg/kg 体重/日と設定し、ARfDを0.3 mg/kg 体重と設定。</u></li> <li>・メタミホップ <u>ADIを0.0042 mg/kg 体重/日、ARfDを1.2 mg/kg 体重と設定。</u></li> <li>・ピラクロストロビン <u>ADIを0.034 mg/kg 体重/日と設定し、ARfDを0.05 mg/kg 体重と設定。</u></li> <li>・ファモキサドン <u>ADIを0.006 mg/kg 体重/日と設定し、ARfDは設定する必要がないと判断。</u></li> <li>・フェンピラザミン <u>ADIを0.12 mg/kg 体重/日と設定し、ARfDを0.8 mg/kg 体重と設定。</u></li> <li>・ボスカリド <u>ADIを0.044 mg/kg 体重/日と設定し、ARfDを3 mg/kg 体重と設定。</u></li> </ul>
動物用医薬品（3品目）	・前葉性卵胞刺激ホルモン(FSH) を有効成分とする牛の過剰排

	<p>卵誘起用注射剤（アントリンR10・A1）  <u>本製剤が適切に使用される限りにおいては、食品を通じてヒトの健康に影響を与える可能性は無視できると考えられる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トリプトレリン酢酸塩  <u>ADIを特定する必要はないと判断。</u></li> <li>・スピラマイシン  <u>ADIを0.025 mg/kg 体重/日と設定。</u></li> </ul>
<p>遺伝子組換え食品等（1案件1品目）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GGI株を利用して生産されたL-グルタミン  <u>「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物のうち、アミノ酸等の最終産物が高度に精製された非タンパク質性添加物の安全性評価の考え方」に基づき、安全性が確認されたと判断。</u></li> <li>・組換えDNA技術によって得られた微生物を利用して製造された添加物のうち、食品安全委員会が高度に精製されたものとして安全性を確認した品目と比較して有効成分が同一である等所定の項目を満たすものについて  <u>平成28年7月6日付け厚生労働省発正食第0706号第1号別添の「比較等項目」の内容をいずれも満たす食品添加物に関しては、既に食品安全委員会が安全性評価を行った品目と比較して安全性状の新たな懸念は想定されず、人の健康に及ぼす影響が変わるものではないことから、食品安全基本法第11条第1項第2号の人の健康に及ぼす悪影響の内容及び程度が明らかであるときに該当。</u></li> </ul>

(3) その他

- ・松本内閣府特命担当大臣（消費者及び食品安全）による挨拶
- ・平成27年度終了食品健康影響評価技術研究課題の事後評価結果を決定
- ・食品健康影響評価技術研究及び食品安全確保総合調査の優先実施課題（平成29年度）を決定
- ・食品安全関係情報（8月6日～8月26日収集分）について報告
- ・食品安全モニターからの随時報告（平成27年10月～平成28年3月分）について報告

## 2. 専門調査会の運営

調査会名	開催回数	調査審議案件	
添加物	2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステアリン酸マグネシウム</li> <li>・加工助剤に関する食品健康影響評価指針</li> </ul>	
農薬	幹事会	3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピラクロストロビン</li> <li>・ファモキサドン</li> <li>・フェンピラザミン</li> <li>・ボスカリド</li> <li>・イソフェタミド</li> <li>・オキシテトラサイクリン</li> <li>・シクラニリプロール</li> <li>・フェナザキン</li> <li>・フルトラニル</li> <li>・アセフェート</li> <li>・メタミドホス</li> <li>・スピネトラム</li> <li>・ブプロフェジン</li> </ul>
	評価第一部会	2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イソフェタミド</li> <li>・フェナザキン</li> <li>・EPN</li> <li>・ジノテフラン</li> </ul>
	評価第二部会	3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バリダマイシン</li> <li>・シクラニリプロール</li> <li>・スピネトラム</li> <li>・ブプロフェジン</li> </ul>
	評価第三部会	2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセフェート</li> <li>・メタミドホス</li> </ul>
動物用医薬品	2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペグボビグラスチム</li> <li>・ジクラズリル</li> <li>・ジクラズリルを有効成分とする牛の強制経口投与剤（ベコクサン）</li> </ul>	
プリオン	1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オーストリアから輸入される牛、めん羊及び山羊の肉及び内臓</li> </ul>	
かび毒・自然毒等	2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フモニシン</li> <li>・佐賀県及び佐賀県内事業者が提案する養殖から提供まで管理された方法により取り扱われる養殖トラフグの肝臓</li> </ul>	
遺伝子組換え食品等	3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組換えDNA技術によって得られた微生物を利用して製造された添加物のうち、食品安全委員会が高度に精製されたものとして安全性を確認した品目と比較して有効成分が同一である等所定の項目を満たすもの</li> <li>・GGI株を利用して生産されたL-グルタミン</li> <li>・NZYM-LP株を利用して生産されたホスホリパーゼ</li> <li>・除草剤ジカンバ及びグルホシネート耐性トウモロコシ MON87419系統（食品・飼料）</li> </ul>	

新開発食品	1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピュアカム葉酸</li> <li>・ピュアカム葉酸MV</li> </ul>
肥料・飼料等	2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センデュラマイシン</li> <li>・スペクチノマイシン</li> </ul>
薬剤耐性菌WG	2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家畜に使用する硫酸コリスチン</li> <li>・薬剤耐性（AMR）対策アクションプランに係る食品安全委員会行動計画</li> </ul>
清涼飲料水等WG	2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門委員等紹介</li> <li>・ワーキンググループの運営について</li> <li>・座長の選出・座長代理の指名</li> <li>・亜鉛（鉄）</li> </ul>
評価技術企画WG	1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米国FDAにおけるデータベース構築及びその活用について（米国FDA、The National Center for Toxicological Research（NCTR）Weida Tong博士による講演及び意見交換）</li> <li>・国内外の反復投与毒性に関するデータベース及び毒性予測ツールの現状について</li> </ul>



### 3. 意見交換会の開催等

#### (1) 意見交換会（全15回）

開催日	開催地	意見交換会名	共催団体
7/21	東京都	食品に関するリスクコミュニケーション 牛海綿状脳症（BSE）国内対策の見直しに係る食品健康影響評価について～健康と畜牛のBSE検査の廃止～	
7/23	東京都	知ろう！考えよう！親子で学ぶ、食品中の放射性物質	消費者庁 厚生労働省 農林水産省
7/25	東京都	平成28年度 学校教育関係者を対象とした食品安全に関する研修会	東京都教育委員会
7/27	北海道 （札幌）	食品に関するリスクコミュニケーション 牛海綿状脳症（BSE）国内対策の見直しに係る食品健康影響評価について～健康と畜牛のBSE検査の廃止	北海道
7/30	仙台市	知ろう！考えよう！親子で学ぶ、食品中の放射性物質	消費者庁 厚生労働省 農林水産省
8/1	大阪府	食品に関するリスクコミュニケーション 牛海綿状脳症（BSE）国内対策の見直しに係る食品健康影響評価について～健康と畜牛のBSE検査の廃止	大阪府 大阪市
8/3	松山市	食品安全委員会 in 松山市「食品の安全に関する学校教育関係者を対象とした意見交換会」～食中毒のリスクについて学ぼう～	松山市
8/4	福岡市	食品に関するリスクコミュニケーション 牛海綿状脳症（BSE）国内対策の見直しに係る食品健康影響評価について～健康と畜牛のBSE検査の廃止	福岡県 福岡市
8/6	大阪市	知ろう！考えよう！親子で学ぶ、食品中の放射性物質	消費者庁 厚生労働省 農林水産省
8/25	大阪府	食品安全委員会 in 大阪府 「食品の安全性に関する意見交換会」	大阪府
8/28	東京都	知ろう！考えよう！親子で学ぶ、食品中の放射性物質	消費者庁 厚生労働省

			農林水産省
8/29	郡山市	食品に関するリスクコミュニケーション～食品中の放射性物質に対する取組と検査のあり方を考える～	消費者庁 厚生労働省 農林水産省
9/2	東京都	食品に関するリスクコミュニケーション～食品中の放射性物質に対する取組と検査のあり方を考える～	消費者庁 厚生労働省 農林水産省
9/28	広島県	食品安全委員会in広島県 学校教育関係者を対象とした食品安全に関する意見交換会～食品の安全性について考えよう～	広島県
9/30	豊田市	食品安全委員会in豊田市 食品の安全を考えるフォーラム	豊田市

(2) 講師派遣 (全13回、うち委員4回)

開催日	開催地	講演会名	依頼元
7/4	東京都	健康食品の安全性に関するセミナー	公益財団法人日本健康・栄養食品協会
7/15	宮城県	栄養総合演習 食の安全・安心について *佐藤委員長	仙台青葉学院短期大学
7/20	新潟県	食品に関するリスクコミュニケーション 「知ろう！考えよう！食の安全」	新潟市保健所
7/21	東京都	平成28年度練馬区学校栄養士一般研修会	練馬区教育委員会
7/22	富山県	食品安全フォーラムinとやま	富山県
7/30	兵庫県	日本先天異常学会第56回学術集会 *佐藤委員長	日本先天異常学会
8/2	京都府	京都府食品の安全に関するリスクコミュニケーション	京都府
8/18	愛知県	食品衛生月間特別講演会	岡崎市
8/18	千葉県	平成28年度栄養教諭・栄養職員研修会 (第3回)	船橋市教育委員会

8/20	神奈川県	横浜検疫所 サイエンスカフェ	横浜検疫所
8/26	埼玉県	リスクコミュニケーター研修会（総論）	埼玉県
9/15	東京都	第37回日本食品微生物学会学術総会 *熊谷委員	日本食品微生物学会
9/26	東京都	日本防菌防黴学会第43回年次大会シン ポジウム *熊谷委員	日本防菌防黴学会

(3) リスクアナリシス（分析）連続講座 開催なし

## 4. 情報提供

### (1) Facebook

委員会の活動や食品を通じて健康に被害を及ぼすおそれのある情報、国民の関心が高い食品安全に関する情報についての補足説明等について、機動的な情報提供

■ 7月（11記事・閲覧数約31,000件/月）

投稿日	記事内容
1 2	BSE国内対策の見直しに係る食品健康影響評価
1 3	BSEリスクコミ実施
2 1	牛海綿状脳症(BSE)の食品健康影響評価書案について意見交換会を開催しています。
2 2	メルマガ【読み物版】(ハ・ヘ・キューやヒ・クニックでの食中毒にご注意ください。その1)
2 5	学校教育関係者を対象とした食品安全に関する研修会
2 6	ドイツ連邦リスク評価研究所(BfR)との協力覚書の締結
2 7	ジュニア食品安全委員会を開催しました
2 8	国際がん研究機関(IARC)の評価の公表(コーヒー、マテ茶等)
2 9	季刊誌『食品安全』第47号の発行
	BSEの食品健康影響評価書案の意見交換会の開催
	メルマガ【読み物版】(ハ・ヘ・キューやヒ・クニックでの食中毒にご注意ください。その2)

■ 8月（10記事・閲覧数約19,400件/月）

投稿日	記事内容
1	報道関係者との意見交換会
2	牛海綿状脳症(BSE)の食品健康影響評価書案について意見交換会を開催しました
3	E型肝炎(豚肉や豚の内臓(レバーなど)による食中毒などにご注意ください！)
10	[告知]委員会開催について(8月16日(火)は開催しません)
18	[告知]委員会開催について(8月23日(火))
24	日本調理科学会にブースを出展します
26	食品安全委員会 in 大阪府を開催しました
	メルマガ【読み物版】(「食中毒予防の三原則について」)
30	日本調理科学会にブースを出展しました
31	BSE国内対策の見直しに係る食品健康影響評価をまとめました

■ 9月（14記事・閲覧数約41,700件/月）

投稿日	記事内容
1	食品中の放射性物質に関し、意見交換会を開催しました（於：福島県郡山市）
2	「朝小サマースクールin昭和女子大」でブース展示をしました（8月27～28日）
6	0157が発生しました
	平成28年度食品健康影響評価技術研究成果発表会の開催
	第621回委員会 松本大臣挨拶
7	日本栄養改善学会学術総会でブース出展します
1 2	メルマガ【読み物版[臨時号]】O157
1 3	[告知]委員会開催について(9月20日(火)は開催しません)
1 6	メルマガ【読み物版】－毒キノコに気を付けよう－ その1
2 3	メルマガ【読み物版】－毒キノコに気を付けよう－ その2
2 6	卵の取扱いについての話
2 7	メルマガ【読み物版[臨時号]】カンピロバクター
2 9	平成29年度食品健康影響評価技術研究課題の公募
3 0	英文電子ジャーナル Vol. 4, No. 3の公開

## (2) ブログ

メールマガジン【読物版】や健康に影響を及ぼすおそれのある危害に関する情報提供

### ■ 7月（5記事・閲覧数約2,500件/月）

配信日	記事内容
2 1	牛海綿状脳症(BSE)の食品健康影響評価書案について意見交換会を開催しています
2 2	メルマガ【読み物版】バーベキューやピクニックでの食中毒にご注意 [1]
2 7	ジュニア食品安全委員会を開催しました
2 9	季刊誌『食品安全』第47号を発行しました
	メルマガ【読み物版】バーベキューやピクニックでの食中毒にご注意 [2]

### ■ 8月（2記事・閲覧数約3,200件/月）

配信日	記事内容
3	豚肉や豚の内臓（レバーなど）による食中毒などにご注意ください！
2 5	メルマガ【読み物版】生活の中の食品安全-食中毒予防の三原則について-

### ■ 9月（5記事・閲覧数約2,900件/月）

配信日	記事内容
6	腸管出血性大腸菌O157による食中毒の発生
1 2	e-マガジン【読み物版「臨時号」】腸管出血性大腸菌O157関連
2 1	生活の中の食品安全 - 毒キノコに気を付けよう - その1
2 6	生活の中の食品安全 - 毒キノコに気を付けよう - その2
2 7	e-マガジン【読み物版「臨時号」】[カンピロバクターによる食中毒関連]

(3) メールマガジン【読物版】(約1万人に配信)

実生活に役立つ食品安全に関する情報を分かりやすく解説した情報等の提供

配信月	配信記事	記事内容
7	バーベキューやピクニックでの食中毒にご注意ください	食中毒を予防して、レジャーやイベントを楽しく過ごすために気を付けることを紹介
8	生活の中の食品安全 －食中毒予防の三原則について－	食中毒予防の三原則についてなどの紹介
9	生活の中の食品安全 －毒キノコに気を付けよう－	キノコによる食中毒に関する情報の紹介

(注) 各種の数字は、平成28年9月末日現在のデータである。